

英語学習に期待すること

柴田正良(人文学類)

3つの英語

あなたが、かけだしの研究者で、いまアジアの奥深くかアフリカの海岸の都市で発表をすることになったとしてみよう。どんな英語ができれば心強いだろうか。3つある。まず「タフな英語」。現地語のできないあなたと、日本語のできない現地人との最低限のコミュニケーションを可能してくれる英語だ。いろいろな経緯で、英語は現在、世界中で最も汎用性が高い。次に、発表の中身を最上のもとするために、英語の文献を読み解き、言いたいことを英語できっちり言うための「正確な英語」が必要だ。これが2番目。これもいろいろな理由から、文学や歴史の世界ばかりでなく政治や経済の世界でも、多くの報告書や研究書は英語で書かれ、論争も英語で行われる。これを避けては通れない。だが最後に、ホテルで一息ついたとき、英語文化の歴史と広がりを与える「深い英語」の世界をあなたが堪能できれば、私はあなたの人生を羨む。小説や詩ばかりか音楽や映画の英語が楽しめたら、これほど素晴らしいことはないだろう。あなたが研究者でなくたって同じだ。私もそのような3つの英語を若い時に身につけたかったのだが…